

表明支持を自民党に

革マル・鉄道労連

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

3月27日三里塚総決起で シズ6

『4イ』体制をうち砕こう

革マル・鉄道労連と自民党が懇談会

三月九日、自民党本部において、「自民党・鉄道労連懇談会」なる、実におぞましい会議がもたれた。この会議には、革マル松崎明をはじめ、鉄道労連から十三人(内、実に革マルが八名!)自民党から十七名が参加して論議がおこなわれたのである。

自民党と理念・政策が一致すると公言

しかもその主旨は、「この懇談会は、『政党との関係については、鉄道労連の理念・政策を支持し、賛同する政党または議員と支持協力関係をとることを基本とします』という第二回大会の方針書に基づくもの」(東鉄労指示)とされているとおり、自民党と「理念・政策」をともしていくことを公然と宣言して開催されたのだ。これは、松崎の「大東亜共栄圏発言」に続いて、革マル松崎・鉄道労連がより決定的な反動的転落をとげ、自民党を支持する労働組合へ公然と移行し、ファシスト労働組合へ純化したことを示すものである。また、労働戦線の右翼「統一」II産業報国会化の流れを先どりするものである。

これこそ産業報国会そのものだ

そもそも、自民党と「理念・政策」を一致するのならば、労働組合など必要ないのだ。「自民党を支持する労働組合」とは、労働者組織を持たない自民党にとって変って、労働者の仮面をかぶって内部から労働運動を解体する先兵となつて、資本や政府の思うとおりに労働者を「組織」する役割をはたすということである。その意味では、自民党より以上の反動的な役割を担うことは間違いないのである。

ないのである。しかも、現在自民党が進めているとおり、軍事大国化と、強権的な支配体制確立へ向けた攻撃、全面的な反動化と戦争政策に見合った形で、労働者を「組織」するということである。これこそ産業報国会でなくてなんであるろうか。革マル・鉄道労連は、その先兵となつて生きることを最終的に決断したのだ。

革マル・鉄道労連と自民党で 動労千葉・国労破壊を密議

しかも、この懇談会の議題は、「国労のいわゆる『地労委闘争』の状況について」「千葉労と一体となつて出向受入企業にまでいやがらせを行っている」(鉄道労連側から)、「高崎地本松下委員長襲撃事件の報道が都労委の『不当労働行為事件』の報道より扱いが小さかったのは納得できない」(自民党側から)等、動労千葉や国労に対する敵意のみで満たされているのだ。

これは、動労千葉、国労が分割・民営化の嵐をのりこえて、不屈にがんばりつづけていることに敵の側がどれだけダメージを受けているのかを示すものである。自民党・JR当局・革マル連合という、見るからにおぞましい野合関係は、政府支配者階級が、分割・民営化、国鉄労働運動潰しに失敗した結果なりたっているにすぎないのである。

三里塚実力闘争の思想で闘おう

鉄道労連解体は、労働運動の戦闘的再生に向けた、最重要の課題である。また、革マル・鉄道労連の奴隷の思想の対極にあるのが、三里塚の実力闘争の思想である。三里塚は、労働運動の戦闘的再生への砦だ。革マル・鉄道労連を解体し、全力で三・二七三里塚へ!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!